

NO.343 連条9年

No.343

憲法9条—世界へ未来へ 連絡会

Peace Constitution League

Since 1995.8.15

防衛費の増強について尋ねた毎日新聞の調査（22年5月24日）では、「大幅に増やすべき」が26%、「ある程度増やすべき」が50%で、8割近い人たちが軍拡を支持している。政府

8月8日、自民党の麻生副総裁は、「台湾有事を未然に防ぐためには、日、台、米をはじめとした有志の国に、非常に強い抑止力を機能させる覚悟が求められている。戦う覚悟だ」

最近、「抑止力」と言えば水戸黄門の紋所よろしく、何でも許される雰囲気になつてゐる。また「敵基地攻撃能力」を「反撃能力」と言い換えたことで、国際法に反する先制攻撃が許されるような空気さえある。ウクライナの惨状を見ているからか、「台湾有事」を煽られているからなのか、皆が「やられる前にやつけてしまえ」という感覚になつてしまつた。

そこで注意すべきは、「備えあれば憂いなし」という考え方である。それは台風や地震の時の話ならばいいが、国際紛争の解決には当てはまらない。漠然とした恐怖心を抱いていることは間違いない。

そこで注意すべきは、「備えあれば憂いなし」という考え方である。それは台風や地震の時の話ならばいいが、国際紛争の解決には当てはまらない。「攻撃こそ最大の防御」だと考へてゐるのならば、安全保障のジレンマに陥ってしまう。軍拡競争が世界に危機をもたらしたことは、すでに経験済みである。

軍事同盟も結んでいないので、一緒に戦うことはできない。できるとすれば、台湾の避難民を日本に受け入れることであろう。でも、香港からも、ミャンマーからも、難民を受け入れていかないこの国に、その覚悟があるだろうか。「戦う覚悟」なんておこがましいことを言う前に、様々

2023年9月20日 毎月1回 20日発行 1997年4月14日第3種郵便物認可

主な記事

巻頭言 石塚 聰	1
メディアが政治の手先となる恐怖 砂川浩慶	2,3
「無実の死刑囚・袴田巖さんを救う会」	
門間幸枝さんに聞く	4,5
三多摩9条連平和イベント開催 奥村隆夫	6
映画紹介 朝倉 亮	6
政治展望台 58 高野 孟	7
本の紹介	8
アーティクルナイン	8

代表 浅井基文／浅野健一／植野妙実子／小倉英敬／C・ダグラス・ラミス
常岡せつ子／中山弘正／樋口陽一／山家悠紀夫

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13
目黒さつきビル303号
TEL 03-5747-9994
FAX 03-5747-9919



ホームページはこちらから

1 941年12月8日、日本海軍の空母機動部隊が突然ハワイのアメリカ海軍基地を攻撃した。この真珠湾攻撃は見事に成功したが、宣戦布告前の奇襲攻撃がアメリカの



石塚 聰

と言つて戦争を煽つた。これは失言
というレベルではなく、明らかに暴
言だ。こうした挑発は何ら抑止力に
ならないどころか、抑止とは正反対
の方向に動いてしまう。しかも、政
府内部も含めて調整したうえでの発
言だというのだから、「バカも休み
休み言え！」と言いたくなる。

台湾が独立を目指さない限り中国
が侵攻することはないと、私は思う。

「 というレベルではなく、明らかに暴言だ。こうした挑発は何ら抑止力にならないどころか、抑止とは正反対の方向に動いてしまう。しかも、政府内部も含めて調整したうえでの発言だというのだから、「バカも休み休み言え!」と言いたくなる。

台湾が独立を目指さない限り中国が侵攻することはない」と私は思う。しかし、「中国は香港の民主主義を壊したではないか」と、反論する人もいるだろう。確かに、それは反論に値するし、可能性はゼロではないと思う。しかし、その時でも、日本は中国の内政に干渉することはできない。日本と台湾は国交もないし、軍事同盟も結んでいないので、一緒に戦うことはできない。できるとすれば、台湾の避難民を日本に受け入れることであろう。でも、香港からも、ミャンマーからも、難民を受け入れていないこの国に、その覚悟があるだろうか。「戦う覚悟」なんておこがましいことを言う前に、様々な国と様々なレベルで話し合いをすることだ。いま必要なのは外交であり、「絶対に戦わない覚悟」である。